

# 業務実績報告書

2020年1月22日

1. 教授・大川洋子

2. 学位 学位 博士 (保健学)、専門分野 保健学、授与機関 広島大学、授与年月 H17.9

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習

【学部】

①母性看護学概論（1単位・毎年開講・専門科目）2年次（2013年度～）

②内容・ねらい

女性の健康をライフサイクルから捉え、発達段階別にその特徴を理解し、母性看護学の役割と看護を創造する能力を養う。不妊治療に関する医療と看護について理解する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

ライフサイクルに応じた女性の健康の特徴について理解を深めるために、生殖器と性機能の基礎知識の補完を行った。「産む・産まない・産めない」という視点から今日的な現状を提示して講義を進めた。また、現在の出産事情については、日本の産育習俗の歴史的な変遷として教員が過去に撮影した写真（小松博物館による産室や用具類などの写真）を紹介し、現在の出産までの歴史的発展について教授した。

生命倫理に深く関連する不妊治療の実際と最新の話題と看護というテーマでとして府中リプロダクティブ医療研究所・のぞみクリニック所長の繁田実先生による特別講義を実施した。講義およびグループワークおよび発表と講師との意見交換を行った。生殖補助医療に関わる問題を（精子・卵子提供、代理懐胎、受精卵の選別、出生前診断等）について学生が自分に近づけて深く考えることをねらいとした。

成績評価は特別講義内容と生殖にかかわる今日的な問題と母性看護の役割の2つの課題でレポートを提出させた。このレポートは3年次前期開講の母性看護学での不妊認定看護師による特別講義につなげる。

①母子看護学 妊娠編・分娩編（2019年度）

②内容・ねらい

妊娠期～分娩期の母性医学としての理解を深め、対象となる妊婦・産婦およびその家族への看護の実際を教授する

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

妊娠編・分娩編を担当した。基礎知識を教授し、母性看護実践とのつながりとしての看護目標を説明する。妊婦一事例を提示し、看護目標を念頭に、情報収集とアセスメント、看護計画を立てる演習を実施し、レポート提出させている。

①母子保健学（1単位・毎年開講・専門科目）2年次（2010年度～現在）

②内容・ねらい

母性保健と小児保健とのオムニバスで教授する。担当する母性保健学4コマである。日本の母子保健の実態と今日的な問題と課題、並びにリプロダクティブヘルス・ライツの意義を理解することをねらいとした。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

まず女性の生涯に亘るリプロダクティブヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）を講義の軸とし、母子保健統計と関係法規との関連、並びに実態を示した。現在の母子保健の実態や問題・課題は2年生の近い将来に関連する事象であることから、学生ができるだけ自分のことに近づけて実態を捉えやすいよう、学生が生まれた年代からの20年間（20歳であるため）の変遷や今後10年間の予測など、厚労省の基本データをもとに講義資料を作成している。

①母性看護学実習(9月～11月末まで担当)

②内容・ねらい

母子の全体を捉え、ウェルネス看護の視点から母性看護実践の能力を高める。また母親役割取得過程の実際を学び、母性看護の役割を理解する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

産科病棟において一人の妊産褥婦のいずれかを受け持ち、看護実践を展開する。母性看護独自の援助技術は初めて体験することが多いため、オリエンテーションにおいて技術演習を行い、臨床では随時指導している。産科外来では妊婦健康診査の妊婦と関わり、対象の理解と看護の実際を理解する。また、母乳外来や産後2週間健診などにも参加させ、妊娠期から産褥期の経過と看護学ぶ。実習指導では学生の実習計画の指導、援助の実際の確認など、学生個々の動きに合わせた指導を心掛けている。

①看護研究方法論(1単位・毎年開講・専門科目)3年次(2006年度～現在)

②内容・ねらい

研究の目的及び研究方法の選択、演繹的アプローチ・帰納的アプローチによる研究手法とその過程を教授する。学生は講義を通して実際の研究論文を熟読し、研究手法の要約を行い、研究方法を教授する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

演繹的アプローチ(調査研究・実験研究)と帰納的アプローチ(質的研究)の概観を教授し、研究の原著論文を提示し、熟読させながら各研究方法のプロセスを学習させている。また、研究は研究疑問が入り口となるため、学生が関心のある事柄から研究疑問につながるように、15コマの15分程度で学生が考えている研究疑問を発表させ、助言している。最終的にはシートに研究疑問を記載させ、関連する研究論文を探させている。学生が探してきた研究論文が研究論文であるかどうかをチェックし、当該講義のテストに解答する研究論文として活用している。従って、調査研究・実験研究・質的研究ごとに異なる問題を作成した。

①卒業研究(3単位・毎年開講・専門科目)4年次(看護研究:2003年度～2012年,卒業研究2013以降)

②内容・ねらい

母性看護領域に関連する問題意識を研究課題として発展させ、研究方法論の理論を活用して実際に文献検討から研究目的・研究方法を計画する。研究計画に基づき、研究活動から得られたデータの分析を行い、結果をまとめる。最終的には考察を加えて研究論文としてまとめる。これら研究活動は、研究の一連のプロセスだけでなく、研究の基本的態度を養う。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

今年度は3名の学生を受け持った。歴史的資料研究が1人、調査研究が2人であった。タイムリーに学生指導を行った。調査研究の学生には統計学的分析方法のゼミを行った。

①教職実践演習(2単位・毎年開講・教職課程)4年次(2013年度～現在)

②内容・ねらい

学生の履修カルテを基に、4年間の学習成果を評価した。実習終了後は、実習前の履修カルテの内容と比較すると、養護教諭としての職業観がより具体的にイメージ化される一方、学生自信の能力が身についたかどうか、反省的な省察が深まった内容となっていた。

本授業の展開は、応急処置・学校における感染症対策・健康相談活動・健康教育など重要とされる4つのスキルを軸に、それぞれの実習体験を振り返り、学生自身の課題と見つけ、養護教諭としての役割・機能ならびに責務遂行にむけた力量と資質を向上させることをねらいとした。最後に、レポートを提出させ成績評価とした。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

履修カルテは2年次、養護実習前・養護実習後の3回実施して、学生の変化をデータ分析した結果を学生に提示し、各々が4年間の成長を自己点検させた。当該科目は応急処置・感染症とその対策・健康相談活動・健康教育について実習体験をグループ間で共有し、その実際をまとめて発表する形式で展開した。さらに、子どものアレルギーに対する対応と健康管理、健康相談活動の実際、健康教育の実際について3人の現役の養護教諭による講義を企画した。ゲストスピーカーは小学校・中学校・高校の現場の養護教諭を招聘して養護教諭の役割の実際についての講義を設けた。

## 【大学院】

①母性看護学演習（2単位・毎年開講）大学院研究科1～2年次（2007年度～現在）

②内容・ねらい

学生個々が母性看護学領域で関心のある課題に関連した国内外の文献レビューを行う。その中から対象理解や看護の判断基準、援助方法論についてディスカッションを行い、研究課題にむけて学生個々の考えを構築する。研究課題および研究方法を明確にし、研究計画書の作成の基礎をつくる。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

履修生はなく、開講しなかった。

①母性看護学特論（2単位・毎年開講）大学院研究科1～2年次（2008年度～現在）

②内容・ねらい

学生個々が母性看護学領域で関心のある課題に関連した国内外の文献レビューを行う。その中から対象理解や看護の判断基準、援助方法論についてディスカッションを行い、研究課題にむけて学生個々の考えを構築する。研究課題および研究方法を明確にし、研究計画書の作成の基礎をつくる。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

履修生はなく、開講しなかった。

①看護研究方法論（2単位・毎年開講）大学院研究科1～2年次（2013年度～）

②内容・ねらい

研究疑問から研究目的の明確化、および演繹的アプローチ・帰納的アプローチによる研究デザインによる研究過程を教授する。また、原著論文の熟読とクリティークを行ない、質の高い研究手法について理解を深める。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

3名が履修した。臨床で研究した経験が乏しいなど、力量に差があるため、調査研究・実験研究・質的研究の原著論文を提示し、院生の輪番制で研究プロセスを発表する形式をとった。その発表後に3つの研究方法について概観を教授した。続いて、各院生の研究疑問を発表してもらい、ブレインストーミングを受講生全体で実施した。

研究デザイン毎の原著論文の研究の一貫性・論理性に着目しながらクリティークを行なった。

①母子看護学特別研究

②内容・ねらい

修士論文指導

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

在籍している1名の院生のデータ分析の指導を実施した。社会人で仕事の合間にデータ収集をしているため、研究の進行が滞ることがある。随時、指導日を調整している。

(2)非常勤講師担当科目

①基礎看護学方法論Ⅶ・看護研究（1単位）、県立看護専門学校（2006年～2019年度）

1単位中10時間分を担当

②内容・ねらい

エビデンスに基づいた看護を実践するうえで、研究の必要性について概説し、帰納的アプローチと演繹的アプローチの看護研究方法の理論的基礎知識を教授する。研究実践については演繹的アプローチを概説する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

当該学校では、看護研究方法論の理論と実際を知識として学習することに主眼をおいているため、研究方法の概説が中心であった。対象学年は臨床実習中の3年次生であり、現在の実習体験から学生個々の疑問点を自由に発表し、その疑問点から研究へどのように切り込んでいくか、その疑問を実証して解決するための研究手法について講義していた。さらに、学生の理解が容易な既存の研究論文を提示し、研究課題－研究目的－研究方法－結果の論文構成に従い、グループワーク・発表と平行して概説した。

④本学における業務との関連性

担当時期は7月とし、6月の養護実習期間の学校訪問との重複を避けた。

|   |
|---|
| <b>(3)その他の教育活動</b>  |
| ①放送大学福井学習センター 面接授業講師<br>テーマ 「看護研究のための統計学的分析」(2014.5～2018.1)<br>授業のねらいは Excel を使用して分析方法と統計学的分析の意味を学ぶことである。受講生は県内・県外者。主に調査研究による実際のデータを用いて記述統計と推測統計のまとめ方について教授した。記述統計では図表によるデータの傾向を把握すること、推測統計はその分析の意味と方法 (t 検定, $\chi^2$ 検定) について講義・演習。<br>テーマ 「生殖医療技術による妊娠・出産」(2019.12)<br>リプロダクティブヘルス&ライツの視点から生殖 j 技術に関する様々な議論を展開する。主に卵子・精子・次生卵の保存、遺伝的な異常に対する選別、卵子・精子・じ、代理懐胎などの提供の 3 視点から事例を提示し、異論を行った。 |

#### 4. 研究業績

|   |
|---|
| <b>(1)研究業績の公表</b>   |
| ①論文 該当なし  |
| ②著書 該当なし  |
| ③学会報告等<br><b>【国内学会】</b><br>「産育習俗からみた育児期の儀礼食に対する先人たちの願いー北陸三県の習俗ー」須見紀美江, 大川洋子, 第 31 回福井県母性衛生学会, 2018 年 6 月.<br>「研修企画を経験した中堅看護師のキャリア開発の実際ー中小規模病院研修機能強化プログラムの参加を通してー」寺島喜代子・大川洋子・赤川晴美, 第 22 回日本看護管理学会学術集会, 2018 年 8 月.<br>「オキシトシン細胞間の興奮性神経連絡の活性化は者人に先行するオキシトシン細胞のバースト発射発言を促進する」本田和正・奥の瑞生・小野山梓・大川洋子, 福井県立大学論集 52 号 2019.9 |
| ④その他の公表実績<br>「新人看護教育管理ワークショップ報告書 2017.3 発行」<br>「中規模病院研修強化」報告書 2018.3 発行   |
| <b>(2)学会活動等</b>   |
| 学会でのコメンテーター, 司会活動<br>非該当  |
| 学会での役職など<br>福井県母性衛生学会常任理事, 2007 年 6 月～現在.<br>第 30 回福井県母性衛生学会学会長 2017. 6. 18   |
| 学会・分科会の開催運営<br>看護研究学会近畿・北陸部会学術集会 企画委員長 2019.3.9   |
| <b>(3)研究会活動等</b>  |
| ① その他の研究活動参加 : 該当なし   |
| ② その活動による成果: 該当なし   |
| <b>(4)外部資金・競争的資金獲得実績</b>  |
| 「県民参加による県立大学地域貢献研究推進事業による奨励研究」, 共同研究者, 2016～2017 年度,<br>獲得資金 3,100 千円<br>「福井県における外国人患者受け入れに対する医療機関の現状と課題」, 共同研究, 2019 年度  |
| <b>(5)特許出願 該当なし</b>   |

## 5. 地域・社会貢献

|   |
|---|
| (1)学外団体   |
| ①国・地方公共団体等の委員会・審議会<br>近畿地方社会保険医療協議会臨時委員 2011年10月～現在<br>放送大学福井学習センター客員教員 2012年6月～2017年3月<br>福井県健康づくり推進協議会委員 2015年度～現在<br>独立法人日本学術振興会 科研費委員会専門委員 2016年12月～2017年11月30日         |
| ②国・地方公共団体等の調査受託等<br>2014～2016年度 福井県看護管理能力育成研修事業； <u>大川洋子</u> ，寺島喜代子，赤川晴美，島田理代子  |
| ③（公益性の強い）NPO・NGO 法人への参加<br>該当なし   |
| ④（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動<br>福井県看護協会 看護研究講座 講師 2009年度～2017年度.<br>福井県看護協会 臨床指導者講習会 講師 2000年度～2017年度.<br>福井県立病院看護部 ラダーⅡ研修「看護研究」 講師 2007年～2017年度.<br>研究指導者講習 2012年度～2016年度. |
| ⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等<br>福井県看護協会 女性健康相談事業 2006年3月～現在.<br>福井県看護協会 新人看護師研修運営協議会 委員 2013年度～現在.<br>福井県看護協会 認定看護管理者教育運営委員会 委員 2015年度～現在.<br>福井県薬剤師会研究倫理審査会審査委員 2016年度～現在  |
| ⑥その他  |
| (2)大学が主体となっている地域貢献活動等   |
| ① 公開講座・オープンカレッジの開講  |
| ② 社会人・高校生向けの講座<br>医療機関における外国人患者受け入れの Point of View (2019.8/8,8/22)  |
| ③ その他   |
| (3)その他（個人の資格で参加している社会活動等）   |
| 公立丹南病院 看護部看護研究指導；2001年度～現在  |

## 6. 大学の管理・運営

|   |
|---|
| (1)役職（副学長，部局長，学科長）  |
| 看護学科長：2015年度～2018年度   |
| (2)委員会・チーム活動  |
| 委員会<br>教育推進企画委員会教職部会委員：2007年度～2014年度<br>研究企画委員：2016年度<br>部局長会議：2018年度<br>チーム活動<br>看護学科内カリキュラム検討委員：2017年度～現在<br>大学院：高度実践看護師養成委員会委員長：2016年度 |

看護学科入試制度検討ワーキング：2018年度  
フィンドレー大学との国際交流企画ワーキング：2018年度

その他

看護実習校との連絡会：2016年度～2018年度  
フィンドレー大学との学術交流のための事前視察（2016年9月19-23日）

(3)学内行事への参加

高校への入試説明会：若狭東高校（2016）  
オープンキャンパス実行委員：2015年度～2018年度  
鯖江高等学校・足羽高校・星稜高校への大学訪問に対する看護学科紹介とミニ講義企画  
高校開放講義：美方高校（2016）

(4)その他，自発的活動など

日本看護系大学協議会出席（6月）：2015年度～2018年度  
公立大学協議会保健医療部会（9月）：2015年度～2017年度  
文部科学省看護学教育モデル・コア・カリキュラム説明会出席：2018.1.16（東京に於いて）